

I 事業報告書

1. 一般概況

(1) とうもろこしの国際需給の動向

2017/18年度の生産量は、全体的に減少し、世界全体では前年度比3.2%減の10億4,173万トンと見込まれ、消費量は、世界全体で対前年度比0.9%増の10億6,841万トンと見込まれている。この結果、期末在庫量は、対前年比12.5%減の2億0,309万トンで、期末在庫率は、前年度を2.9ポイント下回る19.0%と見込まれている。

米国産とうもろこしの生産量は、中西部において、高温少雨による作柄悪化の懸念があったが、その後、好天に恵まれ豊作となった。作付面積は、対前年度比4.1%増の3,650万haと増加し、単収も過去最高となる11.08トン/haとなり、生産量は、3億7,096万トンと見込まれている（対前年度比3.6%減）。需要量は、飼料向け需要、輸出等において増加し、対前年度比1.2%増の3億7,644万トンと見込まれ、この結果、期末在庫量は、対前年度比7.2%減の5,403万トン、期末在庫率は14.4%と見込まれている。

(2) 国内の配合飼料生産の動向

平成28年度の配合飼料生産量は2,318万トンで対前年度比100.2%となり、養鶏用（100.1%）、乳牛用（100.3%）及び肉牛用（101.4%）は微増したが、養豚用（99.6%）が微減した。

平成29年度4月～12月の配合飼料生産量は1,760万トン、対前年度同期比100.7%となっており、畜種別の内訳では、養鶏用（102.0%）及び肉牛用（101.0%）で微増したが、乳牛用（99.9%）及び養豚用（98.8%）は微減した。

(3) 価格の動向

① とうもろこしのシカゴ相場

とうもろこしのシカゴ相場については、4月に入り米国産の大豊作をはじめ、在庫が潤沢な中、エタノール輸出需要や南米産の生育悪化懸念から一時370セント/ブッシェル台まで上昇したものの、360セント/ブッシェル台で推移した。6～7月にかけて、米国中西部の高温少雨の天候予報により、一時400セント/ブッシェル付近まで上昇したものの、その後の天候の回復や単収見込みの上昇により350セント/ブッシェル台で推移した。11月発表の需給見通しで、単収が市場予想を上回ったことにより低位安定で推移しているが、農家売りが進まず上昇傾向で推移した。12月には350セント/ブッシェル台で推移していたが、南米における干ばつ、他商品の上昇、期末在庫の下方修正などにより、年明けから上昇に転じ、3月中旬には395セント/ブッシェルまで上昇し、3月末現在で380セント/ブッシェル台で推移している。

② フレート

米国ガルフ/日本間の海上運賃は、上半期は、原油価格の下落、中国向け石炭の輸送需要が好調で、36ドル/トンから40ドル/トン前後で推移していたが、下半期にかけて、北米産新穀の輸送需要の本格化、原油価格の上昇等により上昇し、現在は45ドル/トン前後で推移している。

③ 為替レート

外国為替は、3月下旬には1ドル113円台であったが、国際紛争等のリスクの高まりなどにより一時110円まで円高が進み、その後、米国の利上げ観測により114円台まで円安が進んだものの、米国の政策への先行き不透明感から再び110円前後となった。6月に米国の利上げが行われ、追加の利上げ観測も高まったことから114円台まで円安が進んだが、北朝鮮情勢のリスク等から再び円高が進み109円台となった。12月には112円を超える水準であったが、2月に入り世界的な株価の急落等により、リスク回避の動きから円高が進み、現在は106円前後となっている。

④ 配合飼料価格

配合飼料価格については、平成29年度第1四半期は、シカゴ相場、フレートの上昇、円安の影響などにより、前四半期に対し引き上げられた。

第2四半期は、大豆粕のシカゴ定期の値下がり、円高の影響等により前四半期に対し引き下げられた。

第3四半期は、米国が天候に恵まれ、とうもろこし、大豆粕の単収増加見通しなどにより、シカゴ定期が下落し、前四半期に対し引き下げられた。

第4四半期は、とうもろこしについては、需給見通しで単収が市場予想を上回ったことなどから、シカゴ相場は底堅く推移したが、大豆粕の上昇、円安などの影響から前四半期に対し引き上げられた。

2. 入会預り金の状況

平成29年度においては、会員及び会員からの入会預り金に異動はなかった。平成29年3月31日現在の入会預り金の状況は、次のとおりである。

会 員 別	入会預り金口数	入会預り金額
	口	千円
(独)農畜産業振興機構	8,000	800,000
(一社)全国配合飼料供給安定基金	1,268	126,800
(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金	113	11,300
(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金	1,613	161,300
全国農業協同組合連合会	798	79,800
全国酪農業協同組合連合会	39	3,900
全国畜産農業協同組合連合会	1	100
全国開拓農業協同組合連合会	1	100
日本養鶏農業協同組合連合会	1	100
(協)日本飼料工業会	1,166	116,600
計 10 団 体	13,000	1,300,000

3. 業務運営

(1) 配合飼料価格安定対策事業（公益目的事業1）

① 交付契約数量

平成29年度の各契約基金との異常補填交付金交付契約数量は、23,412,015トンであり、基金別では、全国配合飼料供給安定基金6,688,317トン、全国畜産配合飼料価格安

定基金 1,298,200 トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金 15,425,498 トンであった。

なお、9月に各基金間移動に伴う交付契約数量の変更を行った結果、全国配合飼料供給安定基金 6,688,697 トン、全国畜産配合飼料価格安定基金 1,293,429 トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金 15,429,887 トンとなり、総交付契約数量は 23,412,013 トンとなった。

② 異常補填交付金交付事業

平成 29 年度においては、補填の発動はなく、異常補填交付金の交付はなかった。

(2) 調査事業（公益目的事業 2）

本事業については、飼料製造工場を対象に、飼料生産・出荷・在庫動向、工場渡価格、原料使用量、都道府県別生産量、都道府県別出荷先別出荷量等を毎月調査するとともに、飼料穀物の国際需給、価格、フレート等配合飼料に関連するデータを取りまとめ、「飼料月報」として毎月発行した。

4. 会議の開催

(1) 総会

- | | |
|--------------|--|
| ① 第 43 回定時総会 | 平成 29 年 6 月 28 日開催 |
| 第 1 号議案 | 役員の選任について |
| 報告事項 | 平成 28 年度事業報告及び決算について |
| ② 臨時総会 | 平成 29 年 9 月 20 日開催 |
| 第 1 号議案 | 役員の補選について |
| ③ 臨時総会 | 平成 30 年 1 月 26 日開催 |
| 第 1 号議案 | 役員の補選について |
| ④ 臨時総会 | 平成 30 年 3 月 23 日開催 |
| 第 1 号議案 | 理事の報酬総額及び監事の報酬総額（案）について |
| 報告事項 | 平成 30 年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて |

(2) 理事会

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| ① 第 259 回理事会 | 平成 29 年 6 月 7 日開催 |
| 第 1 号議案 | 平成 28 年度事業報告及び決算について |
| 第 2 号議案 | 役員の選任について |
| 第 3 号議案 | 通常補填財源支援事業貸付金貸付規程の一部改正（案）について |
| 第 4 号議案 | 通常補填財源強化事業貸付金貸付規程の一部改正（案）について |
| 第 5 号議案 | 第 43 回定時総会の招集及び付議事項について |

② 第 260 回理事会 平成 29 年 6 月 28 日

澤井義雄を理事長に、進藤眞理を専務理事とすることについて、平成 29 年 6 月 28 日までに、理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。

- ③ 第 261 回理事会 平成 29 年 9 月 6 日
 役員の補選、臨時総会の招集及び付議事項（案）、配合飼料異常補填交付金交付契約の数量変更（案）及び外部理事（監事）及び会計監査人の賠償責任限定の契約について、平成 29 年 6 月 9 日までに、理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。
- ④ 第 262 回理事会 平成 30 年 1 月 12 日
 役員の補選及び臨時総会の招集及び付議事項（案）について、平成 30 年 1 月 12 日までに、理事全員から文書により同意する旨の、監事全員から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、機構定款第 38 条第 2 項に基づき、理事会の決議があったものとされた。
- ⑤ 第 263 回理事会 平成 30 年 3 月 9 日開催
 第 1 号議案 平成 30 年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込み（案）について
 第 2 号議案 通常補填財源支援事業貸付金貸付規程及び通常補填財源強化事業貸付金貸付規程の一部変更（案）について
 第 3 号議案 理事の報酬総額及び監事の報酬総額（案）について
 第 4 号議案 会計監査人の報酬（案）について
 第 5 号議案 臨時総会の招集及び付議事項（案）について
 報告事項 平成 29 年度下期職務執行状況報告について

(3) 運営委員会

機構業務の円滑な運営及び推進を図るため、3 回の運営委員会を開催した。

5. 役員の異動

(1) 理事

平成 29 年 6 月 28 日

退任	鹿間	千尋	(協同組合日本飼料工業会)
就任	久光	正郎	(協同組合日本飼料工業会)
再任	澤井	義雄	((公社) 配合飼料供給安定機構理事長)
再任	進藤	眞理	((公社) 配合飼料供給安定機構専務理事)
再任	小原	良教	(全国農業協同組合連合会)
再任	砂金	甚太郎	(全国酪農業協同組合連合会)
再任	中林	政義	(日本養鶏農業協同組合連合会)

平成 29 年 9 月 20 日

退任	小原	良教	(全国農業協同組合連合会)
就任	桑田	義文	(全国農業協同組合連合会)

平成 30 年 1 月 26 日

退任	久光	正郎	(協同組合日本飼料工業会)
就任	平野	宏	(協同組合日本飼料工業会)

(2) 監 事

平成 29 年 6 月 28 日

退任 鈴木 諭 (協同組合日本飼料工業会)

就任 富所 真一 (全国農業協同組合連合会)

再任 村尾 誠 (学識経験者)

6. 事業報告の内容を補足する重要な事項

平成 29 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

< (参考) 主要業務処理事項 >

年月日	業 務 内 容
2017	
4. 11～13	文野清正公認会計士により、平成 28 年度の決算に対する監査を受けた。
4. 19	村尾誠監事、鈴木諭監事により、平成 28 年度の決算に対する監査を受けた。
4. 26	農林水産省生産局長より、平成 29 年度配合飼料価格安定対策事業における異常補填積立金の額の決定通知を受けた。 生産局長が別に定める額 5,000,000 千円
6. 5	運営委員会を開催した。
6. 7	第 259 回理事会を開催した。
6. 28	第 43 回定時総会を開催した。
6. 28	第 260 回理事会を開催した。
6. 30	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の上期分 (4～6 月分) として 828,174 千円が納付された。
7. 31	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の上期分 (7 月分) として 265,115 千円が納付された。
8. 30	運営委員会を開催した。
8. 31	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の上期分 (8 月分) として 265,085 千円が納付された。
9. 6	第 261 回理事会を開催した。(書面)
9. 20	臨時総会を開催した。
9. 29	平成 29 年度配合飼料異常補填交付金交付契約の数量変更の承認を受けた。
9. 29	3 契約基金から、平成 29 年度異常補填積立金の上期分として 1,103,417 千円が納付された。(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金は、9 月分を納付。))
10. 31	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分 (10 月分) として 288,331 千円が納付された。

年月日	業 務 内 容
11.30	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分 (11 月分) として 288,306 千円が納付された。
12.20	文野清正公認会計士により、平成 29 年度の決算に対する中間監査を受けた。
12.29	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分 (12 月分) として 288,306 千円が納付された。
2018	
1.12	第 262 回理事会を開催した。(書面)
1.26	臨時総会を開催した。
1.31	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分 (1 月分) として 268,983 千円が納付された。
2.28	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分 (2 月分) として 268,954 千円が納付された。
3.9	第 263 回理事会を開催した。
3.23	臨時総会を開催した。
3.26~27	文野清正公認会計士により、平成 29 年度の決算に対する期末監査を受けた。
3.30	3 契約基金から、平成 29 年度異常補填積立金の下期分として 1,135,329 千円が納付された。((一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金は、3 月分を納付。)

会 員 名 簿

平成 30 年 3 月 31 日現在

会 員 名	代 表 者 氏 名	住 所
(独)農 畜 産 業 振 興 機 構	理 事 長 宮 坂 亘	東京都港区麻布台 2-2-1
(一社)全国配合飼料供給安定基金	理 事 長 大 澤 憲 一	東京都千代田区内神田 1-4-1
(一社)全国畜産配合飼料価格安定基金	理 事 長 砂 金 甚 太 郎	東京都港区芝 4-17-5
(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金	理 事 長 平 野 宏	東京都港区麻布台 2-2-1
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会	経 営 管 理 長 澤 豊 委 員 会 会 長	東京都千代田区大手町 1-3-1
全 国 酪 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 砂 金 甚 太 郎 会 長	東京都港区芝 4-17-5
全 国 畜 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 加 藤 義 康 会 長	東京都中央区新川 2-6-16
全 国 開 拓 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 平 木 勇 会 長	東京都港区赤坂 1-9-13
日 本 養 鶏 農 業 協 同 組 合 連 合 会	代 表 理 事 中 林 政 義 会 長	東京都千代田区神田須田町 1-7
(協)日 本 飼 料 工 業 会	会 長 平 野 宏	東京都港区麻布台 2-2-1

役 員 名 簿

平成 30 年 3 月 31 日現在

役 職 名	氏 名	所 属
理 事 長	澤 井 義 雄	(公社)配合飼料供給安定機構
専 務 理 事	進 藤 眞 理	(公社)配合飼料供給安定機構
理 事	桑 田 義 文	全国農業協同組合連合会 常務理事
理 事	砂 金 甚 太 郎	全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	中 林 政 義	日本養鶏農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	平 野 宏	(協)日本飼料工業会 会長
監 事	村 尾 誠	日本食肉流通センター卸売事業協同組合 専務理事
監 事	富 所 眞 一	全国農業協同組合連合会畜産生産部総合課長

運 営 委 員 名 簿

平成30年3月31日現在

区 分	氏 名	所 属 職 名
基金業務関係	藤 本 啓一郎	(一社) 全国配合飼料供給安定基金 常務理事
〃	檜 岡 義 樹	(一社) 全国畜産配合飼料価格安定基金 専務理事
〃	引 地 和 明	(一社) 全日本配合飼料価格畜産安定基金 常務理事
〃	神 谷 誠 治	全国農業協同組合連合会 畜産生産部次長
〃	岡 田 征 雄	全国酪農業協同組合連合会 購買部長
〃	露 崎 正二郎	全国畜産農業協同組合連合会 事業部長
〃	臼 井 靖 彦	全国開拓農業協同組合連合会 事業推進部長
〃	桐 林 鋼 治	日本養鶏農業協同組合連合会 参事
〃	平 野 昭	(協) 日本飼料工業会 専務理事